

ほうかつだより

安城市地域包括支援センターひがしばた 第14号 令和3年4月発行
住所:安城市東端町鴻ノ巣 72-2 電話:0566-73-8210

高齢者のうつ病 ～老人性うつ～

高齢者は、定年退職や身内、友人が亡くなるなど急激に環境が変化する年代であり、また加齢による体力の衰え、病気なども影響し、うつ病になりやすいと考えられています。

高齢者のうつ病のサイン

- 👉 習慣だったことができなくなる
- 👉 無口になり、ぼーっとしている
- 👉 趣味や好きなことへの興味がなくなった
- 👉 体に不調があるが、検査をしても異常がみつからない
- 👉 死にたい気持ちをほのめかす



このようなサインは、認知症の症状にみられることもあり、認知症と間違われてしまうことも多いです。高齢者のうつ病と認知症の違いは、発病のきっかけや初期の症状、症状の特徴、進行の仕方に違いがあります。

	高齢者のうつ病	認知症 <small>アルツハイマー型 レビー小体型</small>
初期の症状	不眠・食欲低下など 体の不調 <small>など</small>	物忘れなど 記憶障害 <small>など</small>
症状の進行	何らかのきっかけで 発症・進行する	長時間かけて ゆっくり進行する
精神症状	貧困妄想・心気妄想 <small>など</small>	侵入妄想 ものとり妄想 <small>など</small>

※妄想には、例えば「お金がなくて生きていけない」(貧困妄想)、「自分は不治の病にかかってしまった」(心気妄想)、「家屋や敷地内に侵入される」(侵入妄想)などがあります。

高齢者のうつ病は、症状が出ていても「年齢のせいだろう」と本人も家族も見過ごしてしまい、受診が遅れがちです。認知症や他の病気であっても早めの対処が必要です。“これまでの様子と違うな”と感じることがあったらかかりつけ医に相談してみましょう。

地域ケア地区会議のご報告

3月11日(木)に明祥プラザにて令和2年度第2回地域ケア地区会議
明祥地区の社会資源って何だろう?～一人一人の役割を知り、連携できる町づくり～
を開催し51名の方にご参加いただきました。

住み慣れた町で尊厳ある自分らしい暮らしを最後まで続けることができるように地域内で助け合う体制を“地域包括ケアシステム”と言います。地域包括ケアシステムは、それぞれの地域の実情にあった医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される体制を目指しています。わたしたち明祥地区においても地域包括ケアシステムを構築すべく、医療関係者、地域の方、事業所等多くの機関が関わっています。



☆お一人ずつ1分間スピーチ☆



☆深津医院深津敦司先生によるご講評☆

今回の会議では、顔の見える関係づくりとして、関係者の方々にお互いの役割や思いをお一人お一人にお話していただきました。また、地域の方と専門職との連携で熱中症による危険な状態から回避できたという事例をお伝えしました。関係者がお互いの顔を知り、思いを共有し合うことで、事例のようにスムーズな連携につながるきっかけとなればと思っています。

会議後のアンケートでは、相談先がわからない、連携のノウハウを知りたい、事業所と地域との連携の機会が少ない等たくさんのご意見をいただきました。ご意見を参考にしながら今後もより良い明祥地区となるよう努めて参りたいと思います。

《お知らせ》

令和3年5月18日(火) 13:30～14:30 明祥プラザ2階
「**めいしょうカフェ**(認知症カフェ with 介護者のつどい)」を開催します。
※認知症の方やそのご家族、地域の方、どなたでも参加いただけます。
※コロナ感染拡大防止のため飲食の提供はございません。
また、予告なく中止または変更となる場合があります。ご了承ください。